

Vol.18 秋が到来しました、少し寂しさも感じさせます

7月末から夏の間の風物詩として、空の広場脇にあるパーゴラの屋根によしずを掛けて日除けを作っていました。夏の暑い時期には大きな日陰が広がり、よしず自体も郷愁を感じる自然の素材なので、公園に馴染んでいました。



9月末までよしずを掛けておく予定でしたが、台風が近づいてきたので、少し早めに撤去しました。設置する際には、よしずの配置や固定の方法など、思いのほか検討時間がかかりましたが、外すのは簡単に終わりました。

よしず掛けが無くなったパーゴラは、鉄骨の骨組みだけなので、何か忘れ物をしたようで落ち着きません。これも、見慣れてしまえば違和感はなくなるのでしょう。取り外したよしずは、来年の設置に向けて大きさなどを記載し



た表示を貼り付けて倉庫に保管しました。夏は暑くて困りますが、キラキラした季節なので、その終わりを告げる一つの光景は少し寂しさを覚えます。

四季を感じるお別れですが、また来年夏のよしず掛けをお待ちください。